

2024年3月14日発行

神奈川イグレンの活動状況を伝える機関紙

神奈川イグレンニュース〈第240号〉

発行：神奈川県異業種連携協議会（議長 金究武正）

発行責任者：専務理事 芝 忠 編集：事務局長 愛賢司

〒231-0015 横浜市中区尾上町580 神奈川中小企業センタービル7F

TEL/FAX045-228-7331 <http://www.kanagawa-igren.com>

（目次）

- 川崎異業種研究会「日越外交樹立50周年記念特別企画」 （1頁）

ベトナム視察会（報告）

- アジアが解る 経営が読める 未来が見える （5頁）

第90回 アジアビジネス探索セミナー（2024年1月19日開催）の報告

アジアビジネス探索セミナー 編集長・馬場 隆



【3月8日国際女性デーシンボル花 ミモザ 鎌倉八幡宮】

川崎異業種研究会「日越外交樹立 50 周年記念特別企画」

ベトナム視察会（報告）

今年は日越外交樹立 50 周年の記念の年にあたり、当会においても数年振りの海外視察の行先をベトナムに定め、訪問地はダナン・ホイアン・フエに決定。9月10日（日）から13日（水）にかけて、12名の参加者を得てベトナム視察会を実施した。

1日目（9月10日）

《ダナン三日月ジャパニーズリゾート&スパ視察》

ホテル三日月グループが、ダナンに 2019 年にオープンした 100%日本独資による純日本式リゾート施設「ダナン三日月」を視察した。東京ドーム約 3 個分の広大な敷地にホテルや屋外・屋内・屋上プールなどが建ち、館内には実物の梵鐘や神輿、甲冑・着物等の展示や日本文化紹介コーナーがあった。本年 6 月には藤井聡太棋聖のタイトル戦会場となり話題になった。同グループの日本型リゾート産業の海外展開戦略について見聞でき、大変参考になった。



【全室オーシャンビュー】



【日本文化紹介コーナーが充実】

《ダナン市内視察》

ドラゴンブリッジの呼称で知られるダナン名物ロン橋をはじめ、ハン市場、大聖堂、リンウン寺をまわった。



【ロン橋（ドラゴンブリッジ）】



【ハン市場】

2日目（9月11日）

【ダナン港（ティエンサ港）視察】

川崎港とダナン港とは1994年に友好港の調印を締結以来、長年にわたる交流が続けられ、2019年には川崎港との直航航路が開設。ダナン港では管理運営会社 DANATUG を表敬訪問し、フン会長以下幹部との面談を行い、港内施設を視察した。現在、客船も寄港する港湾拡張工事が行われて



【ダナン港を表敬訪問】



【ダナン港湾施設を視察】

いる。

《ダナン日本商工会議所とのランチミーティング》

ダナンにおける日系企業の進出動向等を伺うべく、ダナン日本商工会議所より平山会頭、有馬書記、石川事務局長を迎えてランチミーティングを行った。同所は130社の会員を有し、製造業・IT企業進出だけではなく、サービス業や飲食業も増えている。毎年7月開催のジャパンフェスティバルでは川崎フロンターレのサッカー教室開催や多摩区所在のプロレス団体「ヒートアップ」興行など、川崎との交流も知ることができた。



【ダナン日本商工会議所との懇談を終えて】

《さくら日本語センター視察》

22年に亘りダナンで多くの日本語人材を輩出している「さくら日本語センター」を訪問。フック副校長、教師の松浦氏と面談を行い、概要説明を受けた後、授業参観や学生との意見交換を行った。コロナ禍や円安により日本語熱はやや冷めて学生も減ったが、日本のアニメや文化等に憧れて、日本語を熱心に学ぶ若者の光景を目にし、実際の声を聞くことができるなど、貴重な体験をすることができた。



【日本語授業を参観】



【ダナンでの日本語教育について何う】

《ホイアン（ナイトツアー）》

ホイアンは近世に国際貿易港として繁栄し、朱印船貿易により日本との交易も盛んで16世紀には大規模な日本人街が存在した歴史を持つ。来遠橋（日本橋）をはじめ、古い建築群はユネスコ世界文化遺産に登録。近年はランタン（提灯）によるライトアップが非常に人気高く、国内外の観光客で賑わっており、観光立国を目指すベトナム観光政策の一端を垣間見ることができた。



【観光客で賑わうホイアンを訪ねる】

3日目：9月12日（火）

《フエ工業短期大学視察》

フエ工業短期大学の視察では、電気工学科・機械工学科の実習教室や自動車整備等の作業訓練施設を見学し、電気工学部長室にて説明を受けて意見交換を行った。同校では日本型高専教育による技術者養成を目指して、政府の後押しにより、独立行政法人国立高等専門学校機構による「KOSEN教育モデル」の導入が開始され、一部の卒業生は日本で就職。当日は新入生の入学式があり、同校主催昼食会には、実際に卒業生採用の三菱電機エレベーター社の関係者とともに招待を受けて交流を深めた。



【実習用機械が並ぶ教室】



【同校での高専教育について何う】

《フエ視察》

フエは19～20世紀のベトナム最後の王朝「グエン朝」王宮跡をはじめ、一部の歴史的建造物がユネスコ世界文化遺産に登録された歴史的都市として有名。トゥ・ドゥック帝廟、王宮跡、ティエンムー寺、アンヒェンガーデンハウス、アンディン宮殿等を見学し、フランス植民地前、最後の王朝の往時に想いを寄せた。



【最後の王朝グエン朝王宮跡】

【フエ最古の寺院 ティエンムー寺】

フエ視察後、ベトナムを南北に結ぶ主要幹線道路の国道1号線を通り、日本のODAにより2005年に開通し、東南アジア最長6,280mを誇るハイバントネルを抜けてダナンに戻った。市内で日本式立ち寄り湯に寄ってから空港近くのホテルで夕食をとり、深夜便に搭乗し翌13日の朝、成田空港に到着、現地解散して視察会を終えた。

実質2日半という短期間の視察であったが、アフターコロナ下、アセアン諸国中、高い経済成長を続けている最新のベトナムを訪問し、川崎と関係が深いダナンでは日系企業動向を知り、日本語を学ぶベトナムの若い世代との交流を図ることができた。その他、観光都市ホイアン・フエでは観光産業を重視するベトナムの取組みを体感するなど、非常に充実した実り多き視察会となった。

● 講演1. 激動期のアジア経済展望 カンボジア・シアヌークビル近況について

登壇者： NPO 法人 アジアアパレルものづくりネットワーク代表理事 小島正憲

【工業団地とカジノが併設】

直近でカンボジアに出かけてきた。カンボジアは面白い国で外国とのお金の出し入れが自由。ドル金利は年利 10%あり、ビジネスチャンスも多い。さらに面白いのが、ほとんどの工業団地にカジノが併設されていること。その中でも、注目は南部のシアヌークビルだ。首都プノンペンから高速道路を使い2時間で行ける。そこに中国がつくったシアヌークビル SEZ（経済特区）がある。金融がやりやすく、海外に資金を逃がせるとの思惑もあり、SEZとして急速に発展した。投資のピークは2017-2018年ごろで、カジノやホテルが林立した。中国の一帶一路政策もあり、びっくりするぐらい中国人が出てきた。SEZに進出した人たちの遊び場所確保というニーズもあったろう。日本人経営のカジノもある。

【シアヌークビルの発展と衰退】

同 SEZ は中国・江蘇省の繊維大手・紅豆集団の投資。現在、入居企業 175 社、従業員 3 万人で 1 社当たり 200 人弱。これでは縫製工場は割に合わないはずだ。何のための工場進出かと、私は首をひねっている。

2017 年には、中国が外貨持ち出しを厳しくした。このころからオンラインカジノがカンボジアでも広まった。しかしこれだとカジノ来場者が少なくなり税収が減少するので、カンボジア政府はオンラインカジノを規制した。それでも 2019 年に同市に行った際は、「第 2 のマカオ」になると賑わっていた。今はその賑わいは見られない。

【不況色強まる街】

規制にイヤ気がさしたか、一時は 50 万人ぐらいいた中国人が 2019 年秋ごろから急減。中国人は夜逃げ同然で帰国していった。今、シアヌークビルでは、工事が中断した 14 階建て以上のビル群が約 700 棟もあると言われている。現地のカンボジア人たちは途方にくれている。いずれコロナ明けには戻ると言われたが、今度は中国が不動産への貸出規制を強めたためバブルがはじけ始め、中国人や中国企業は戻らず、シアヌークビルも不況に突入したと見ている。

【中国経済との関連】

以上は仮説だが、カンボジアから間接的に見えてくる、私なりの中国経済への見方という意味にもなる。中国経済は推して知るべしではないだろうか。

【日本の工業団地】

シアヌークビルには日本の JICA がつくった工業団地もあり、5 社が入居している。こちらは堅実で王子製紙のほか、イオンの流通施設、さらに中国がつくった鉄鋼基地もある。これらで全体の 3 分の 2 は埋まっている印象だ。

●緊急レポート 日本の外国人労働者をめぐる環境変化と政策の動向について

TSB・ケア・アカデミー代表取締役社長 中澤 司

【外国人労働者が不足】

今後、日本は人手不足から 2025 年問題（団塊の世代が 75 歳以上に）、2040 年問題（団塊ジュニア世代が 65 歳以上に）などに遭遇する。2021 年時点で外国人労働者は 172 万人だが、JICA の試算では 2040 年の経済成長目標達成には、外国人労働者が拡大（674 万人）するも、なお 42 万人が不足すると予測される。

【日本の働きやすさを発信する必要】

アジア各国とも高齢化が進み各国の経済水準も向上することから、日本で働くメリットなどが低下する一方、アジア各国の人材輩出余力も低下し、外国人労働者の取り合いになる可能性が高い。外国人労働者にとって、日本が働きやすく魅力ある場所となるように、改善を進め情報発信していく必要がある。

【技能実習は減少傾向】

外国人労働者の在留資格には「技能実習」と専門的・技術的分野の特定技能（1号・2号）がある。技能実習は3年間転職ができず、最低賃金でしか働けないなど課題があり、その登録数は令和4年で34万人だが、減少傾向にある。

【特定技能・外国人拡大への貢献】

今、日本で増えているのが特定技能の資格を持つ外国人労働者で、令和4年で48万人と増大傾向に。就職先は製造業（飲食製造を含む）・介護・建設業などが多い。さらに昨年、特定技能資格でもよりレベルの高い2号が全職種で解禁されたが、資格を得るにはキャリアアップの教育が必要になる。

【当社の特徴と事業展開】

TSB・ケア・アカデミーは、フィリピン、ベトナム、ラオス等に拠点があり、特定技能を目指す外国人を教育・支援している。海外は質の高い介護や製造分野等の人材を送り出し、国内は就職マッチングと外国人人材の登録支援等を進めている。特に在留中の生活オリエンテーション、各種行政手続への情報提供と支援、日本語習得支援、日本人との交流促進に係る支援等を、きめ細かく実施している。

【新しい産官学連携の雇用スキーム】

さらに当社は特定技能資格に向けた新しい道として、「HITSB(ヒッツビー)」と名づけた産官学連携の雇用スキームを進めている。八戸工業大学（八戸市）と連携し、当面、建設と自動車整備の2コースについて、同大学で学びつつインターシップ（6か月）を行う。アルバイト先となる受入れ企業は面接・内定後、留学費を立替える（3年就業で返済免除に）。さらに地元自治体と連携し、市営住宅に割安で入居も可能となる。今年8月から受入れ実施へ、準備を進めている。

【アジア街角トンデモ情報】

○ バンコクのある日系ホテルの寿司屋では、にぎりのおまかせが2万5千円だった。びっくりしてその話を友人にすると「増田さんあの店は良心的価格ですよ。今話題の「はんげつ」という寿司屋は、にぎりのおまかせが15万円です。この店まだ日本人のお客さんを見たことがないそうです」との答え、今回の取材で一番の驚きだった。(増田)



【湯河原町幕山公園 わずかに咲いていた梅の花】